

チュニジア革命が拡散しないと考えられる理由

ジン・アビディン・ベンアリ政権の転覆 Stephen M. Walt 著

筆者の同僚であるマーク・リンチを含む多くの人々がこの事件について、アラブ世界全体に民主化の動きが拡がるきっかけになると示唆している。チュニジアの出来事が強力なデモンストレーション効果となり(さまざまなニューメディアによって増幅されて)、不満を持つ大衆が蜂起し、エジプトやシリアなどの容赦ない独裁主義に挑戦すると考えられている。東欧のベルベツ革命、あるいはウクライナやグルジアなどで起こった様々な「カラー革命」からの類推であることは明らかである(ただし、全員が同じように類推している訳ではない)。

私はそうした見方に懐疑的である。むしろ世界の革命史は、そうした革命の連鎖がきわめて稀であり、何らかの形で波及する場合でも、進行は非常に緩やかで、外国からの公然の侵略を伴うことが多い。

まず、フランス革命が欧州全体に同調的な革命を引き起こすことはなかった。最終的にいくつかの王室が転覆されたのは確かだが、そのほとんどはフランス陸軍の武力によるものであった。同様に1917年以降、多くの人々がソビエト共産主義の欧州全体への拡散を恐れていたが実際にはそれほど拡がらず、共産主義が世界に拡がったのは第2次世界大戦後であり、赤軍の軍事力を後ろ盾にしていた(毛沢東のような国内の共産主義者による革命もあったが、それは数十年の内戦を経た後であった)。1979年のイラン革命も特に拡散することはなかった。いくつかの国(例えばレバノン)で同調者が現れたのは間違いないが、この30年間にホメイニ型の革命が連続することはなかった。

東欧のベルベツ革命は一部の例外的な事例であるが、それは東欧のソ連衛星国がすべて、ソ連からの侵略の脅威に依存した不自然な政権を維持していたからである。これらの国々の政権はソ連の軍事力という共通の要を失い、ドミノ式に崩壊することになったのである。

しかし、アラブ世界はそういう状況にない。ほとんどのアラブ政府は独裁主義であるが、同時にすべてが独立しており、その支配者は少しずつ異なる政治的な制度と政策の組み合わせに依存して権力を維持している。ベンアリ大統領が最終的に統治への挑戦に対する対応を誤り、権力の座を追われても、他のアラブ指導者がそうした統治に対する挑戦をかわし、阻止し、あるいは抑制できないことにはならない。

チュニジアの出来事が他国の同様な政変につながる可能性が低い理由はその他に3つある。第一に、ティムール・クラン等が示しているように、どのような社会でも革命が起きる可能性を事前に察知することは非常に困難であり、多くの場合、革命の機運の高まりは社会における非常に固有な選好と情報効果に依存している。つまり、純粋な蜂起があり、それが勢いを増すかどうかは、かなり偶発的な過程なのである。第二に、チュニジアの出来事は他のアラブ独裁者に対する明白な警告であり、彼らは向こう数ヶ月間、同様な動きが顕在化することを特段に警戒することになる。第三に、向こう数週間か数ヶ月間にチュニジア情勢はそれほど興味を引かなくなる可能性があり、特に政府の崩壊が、混乱、暴力、経済的な困窮につながるようであればなおさらである。その場合、不満を持つ他国の国民も、「この政府は無能だが無政府よりはましだ」と考えて、不人気な指導者の統治に対する挑戦に積極的でなくなるかもしれない。

しかし、革命の連鎖がまったく起こりえないとか、チュニジアの出来事が他国の政治的な議論に長期的な影響を及ぼさないとか、あるいは最終的に成功する民主化指向の兆候でないなどと論じているのではない。「最終的に」というのは長期間となる可能性が高く、今回の出来事でアラブ社会の急速な変革を期待しているならば失望させられる可能性が高いだろう。

(参考サイト)

http://walt.foreignpolicy.com/posts/2011/01/15/why_the_tunisian_revolution_wont_spread

■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様にエジプト市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、特定ファンドの勧誘、販売を目的としたものではありません。